

狩川周辺の鳥類記録

日比野 義介

Gisuke Hibino:

Records of Birds from Karikawa in the Western Kanagawa Prefecture

はじめに

筆者が居住する南足柄市は、神奈川県西部に位置する足柄平野の中でも西側に位置し、豊かな自然環境を保っている。市内を流れる狩川は、箱根外輪山を源流とする酒匂川水系の河川であり、流域面積約71km²、流路延長16kmである。途中、洞川、要定川、仙了川と合流した後、小田原市飯泉で酒匂川に合流して、相模湾に注いでいる（神奈川県小田原土木事務所）。

今回、筆者は、狩川流域の鳥類を、1983年から2004年までの間、主にルートセンサスによって調査したので、その調査時に観察した種について報告する。

調査方法及び結果

調査地（図1）は、箱根外輪山の山並みが迫る里山

の斜面林や畑が残る一方で、住宅開発による平地の水田の減少が進む田園集落地帯である。

調査は、主に晴天又は曇天の土曜日、日曜日及び祭日の早朝に1～2時間程度、1983年から1992年までの10年間は主に大泉河原橋から神明橋間を、また1993年から2004年までの12年間は調査地域を拡大して大雄橋から山道橋間で、時速3km程度の歩く速度で移動し、姿及び鳴き声を確認した。確認鳥類の月変動は表1のとおりであり、また年変動は図2のとおりで、調査期間を通じて34科89種を確認した。2003年は確認種数が最も多く62種、1984年は最も少なく40種であった。なお、調査日時及び天候は表2のとおりであるが、1997年は調査の中断により、また2000年は野帳の喪失により一時期（冬期）の記録となっている。

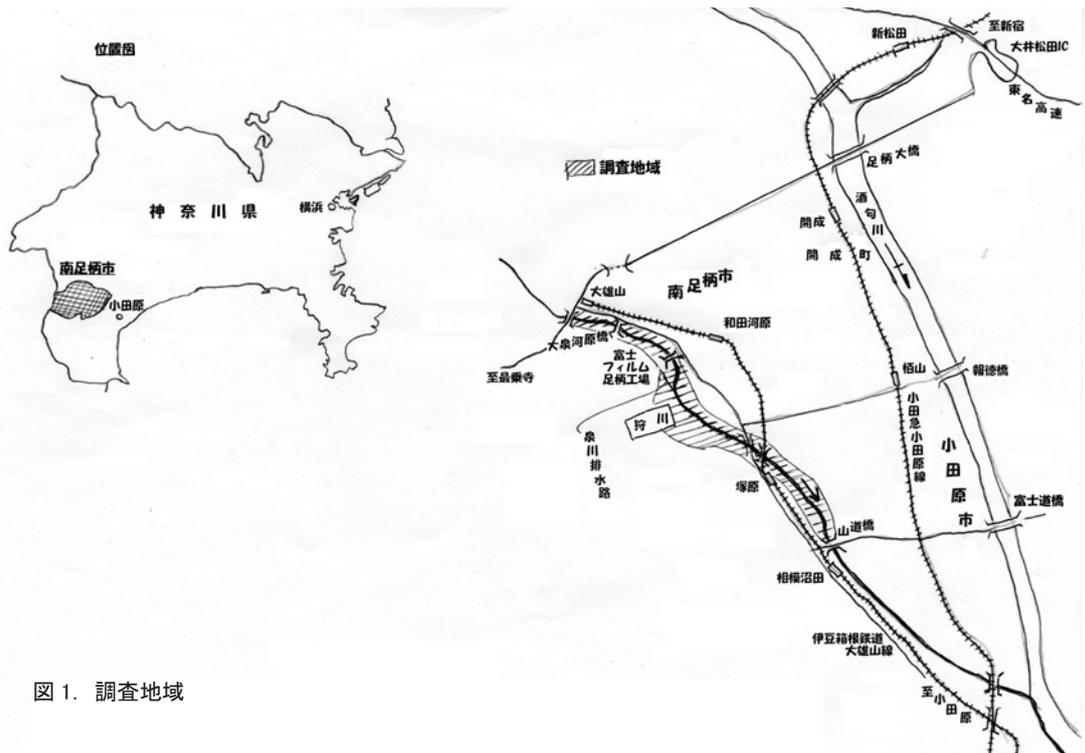


図1. 調査地域

表 1. 月間出現表

種 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カイツブリ	○	○	○	○	○						○	○
カワウ	○	○	○	○					○			○
ゴイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ササゴイ				○								
アマサギ								○	○			
ダイサギ	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
オシドリ	○	○									○	○
マガモ	○	○	○						○	○	○	○
カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コガモ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
トモエガモ												○
ヒドリガモ	○	○	○	○					○	○	○	○
アメリカヒドリ	○	○									○	○
オナガガモ	○	○	○	○					○	○	○	○
ヨシガモ	○	○	○									
オカヨシガモ			○									
シマアジ			○									
ハシビロガモ	○	○	○	○							○	○
カワアイサ	○	○	○									
ミサゴ	○		○									
トビ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
ツミ			○									
ハヤブサ	○											
チョウゲンボウ	○	○	○					○		○		○
コジュケイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キジ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	
クイナ	○	○	○	○						○	○	○
バン	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
タマシギ					○	○						○
イカルチドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムナグロ				○								
タカブシギ								○				
キアシシギ					○			○	○			
イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タシギ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
ユリカモメ	○	○	○	○							○	○
セグロカモメ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
コアシサシ				○	○	○	○					
キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒメアマツバメ	○	○	○	○		○		○		○		
アマツバメ			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤマセミ			○						○			○
カワセミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アリスイ			○									
アオゲラ			○									○
コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
ヒバリ				○								
ツバメ			○	○	○	○	○	○	○	○		
コシアカツバメ							○	○	○	○		
イワツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
キセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
タヒバリ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒレンジャク			○									
ルリビタキ			○									
ジョウビタキ	○	○	○	○					○	○	○	○
ノビタキ										○		
イソヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
トラツグミ			○									
アカハラ	○	○	○	○							○	○
シロハラ	○	○	○									○
ツグミ	○	○	○	○					○		○	○
ウグイス	○	○	○	○	○		○			○		○
オオヨシキリ					○	○	○			○		
セッカ	○			○	○	○	○	○	○	○	○	

表 1. 月間出現表 (続き)

種 名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
サメビタキ										○		
エナガ	○	○	○								○	○
ツリスガラ										○		
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メジロ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カシラダカ	○	○	○	○						○	○	○
アオジ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
アトリ			○									
カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
イカル	○	○	○	○	○				○	○		○
シメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ニューナイスズメ	○			○							○	○
スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
カケス	○	○	○		○				○	○		○
オナガ	○			○	○	○	○	○		○	○	○
ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

確認鳥種一覧

原則として、和名、学名、その種についての簡単な説明と必要に応じて記録データを記載した。和名、学名、配列は日本鳥類目録改訂版第6版（日本鳥学会 2000）の日本鳥類目録に準じ、渡りの区分については、五百沢（2000）および桐原（2000）を参考にした。

カイツブリ科

カイツブリ *Tachybaptus ruficollis* 留鳥：調査地域内では、主に冬期に確認し、最大 5 羽（1992 年 12 月 27 日）を確認した。

ウ科

カワウ *Phalacrocorax carbo* 留鳥：調査地域内へは、1998 年 12 月以降に飛来し、最大 43 羽（2001 年 1 月 1 日）となったが、カワウ防除対策として、カカシや CD 版が設置された 2004 年 2 月以降は、飛来数が激減した。

サギ科

ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* 留鳥：狩川の右岸に所在する富士フィルム足柄工場（中沼）の排水池等を餌場とし、その周辺に生息し、幼鳥（1983 年 9 月 14 日ほか）を主に、最大 40 羽（1988 年 8 月 28 日）を確認した。

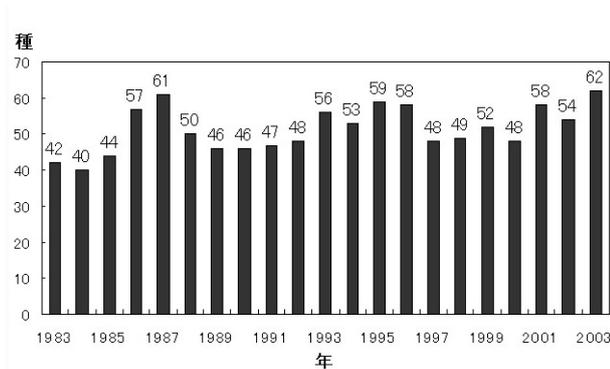


図 2. 年別の出現種数

ササゴイ *Butorides striatus* 夏鳥：調査地域内ではまれで、1983 年 4 月 3 日 5 羽、2000 年 4 月 29 日 1 羽を確認した。

アマサギ *Bubulcus ibis* 夏鳥：調査地域内ではまれで、1992 年 8 月 8 日 1 羽、9 月 19 日 4 羽を確認した。

ダイサギ *Egretta alba* 留鳥：主に冬、最大 7 羽（1991 年 12 月 1 日）を確認した。

コサギ *Egretta garzetta* 留鳥：冬には集団となり、最大 67 羽（2002 年 12 月 15 日）を確認した。

アオサギ *Ardea cinerea* 留鳥：主に、富士フィルム足柄工場の排水池等を餌場とするものを、最大 21 羽（1986 年 12 月 21 日）確認した。

カモ科

オシドリ *Aix galericulata* 留鳥：調査地域内ではまれで、1986 年 11 月から 1987 年 2 月まで、1989 年 1 月、2004 年 4 月 24 日に各 ♀ 1 羽を確認した。

マガモ *Anas platyrhynchos* 冬鳥：最大 ♂ 9 羽、♀ 6 羽（1994 年 12 月 24 日）を確認した。

カルガモ *Anas poecilorhyncha* 冬鳥：1983 年以来、確認個体数が増加し、最大 153 羽（2003 年 3 月 6 日）を確認した。また、一部は夏期も定着し、1986 年 8 月 3 日及び 8 月 31 日にはヒナ 5 羽を確認した。

コガモ *Anas crecca* 冬鳥：調査地域内では、9 月に飛来し、翌年 3 月に去るが、♂ ♀ 最大 80 羽（1992 年 12 月 27 日）を確認した。

トモエガモ *Anas formosa* 冬鳥：調査地域内ではまれで、1990 年 12 月 24 日 ♂ 1 羽を確認した。

ヒドリガモ *Anas penelope* 冬鳥：1986 年以降、最大 81 羽（1998 年 1 月 31 日）を確認した。

アメリカヒドリ *Anas americana* 冬鳥：調査地域内ではまれで、1998 年 11 月 28 日 2 羽、12 月 30 日 3 羽、2001 年 1 ~ 2 月 1 羽、2003 年 1 月 13 日 ~ 2 月 11 日 1 羽、2004 年 3 月 6 日 1 羽をヒドリガモの群の中に確認した。

オナガガモ *Anas acuta* 冬鳥：1986 年から確認個体数が増加し、最大 14 羽（87 年 1 月 24 日）を確認したが、1989 年 2 月以降減少した。

ヨシガモ *Anas falcata* 冬鳥：調査地域内ではまれで、

2000年3月18日1羽, 2001年1月1日～3月31日に1～2羽を確認した。

オカヨシガモ *Anas strepera* 冬鳥: 調査地域内ではまれで, 2001年3月18日3羽を確認した。

シマアジ *Anas querquedula* 旅鳥 1988年3月20日♂1羽を確認した。

ハシビロガモ *Anas clypeata* 冬鳥: 調査地域内では比較的まれで, 1986年2月～4月に最大3羽, 1987年1月♀1羽, 1989年2月♂2羽, 1990年1月♂♀各1羽, 1996年11月1羽, 12月3羽, 1997年12月1羽, 1998年1月4羽, 3月1羽, 2000年1月1羽を確認した。

カワアイサ *Mergus merganser* 冬鳥: 調査地域内ではまれで, 2003年1月2日3羽, 1月19日6羽, 2月11日3羽, 2004年3月6日♀2羽を確認した。

タカ科

ミサゴ *Pandion haliaetus* 留鳥: 調査地域内ではまれで, 2001年1月20日1羽を確認した。

トビ *Milvus migrans* 留鳥: 足柄平野に生息するものが1～2羽, 狩川域内に飛来するものを確認した。

ツミ *Accipiter gularis* 留鳥: 1990年3月24日斜面林(中沼)で交尾を確認した。

ハヤブサ科

ハヤブサ *Falco peregrinus* 留鳥: 2001年1月1日, 1羽を泉川排水路付近(中沼)で確認した。

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus* 留鳥: 主に冬期に調査地内を飛翔するものを確認した。

キジ科

コジュケイ *Bambusicola thoracica* 留鳥: 調査地域内では, 春から夏にかけて確認した。

キジ *Phasianus colchicus* 留鳥: 確認個体数が増加している。また, 2001年7月1日ヒナ6羽を確認した。

クイナ科

クイナ *Rallus aquaticus* 冬鳥: 1986年2月16日ほか, 1～3羽を確認した。

バン *Gallinula chloropus* 留鳥: 幼鳥も確認した。(1987年9月23日ほか)

タマシギ科

タマシギ *Rostratula benghalensis* 留鳥: 調査地域内ではまれで, 1985年6月15日♂♀各1羽, 1987年12月6日♂1羽, 1993年5月22日1羽を確認した。

チドリ科

イカルチドリ *Charadrius placidus* 留鳥: 一年を通して確認し, 最大9羽(1986年1月12日)を確認した。

ムナグロ *Pluvialis fulva* 旅鳥: 1986年4月1日から4月13日までの間に1羽を確認した。

シギ科

タカブシギ *Tringa glareola* 旅鳥 1987年8月22日1羽, 1991年8月17日に3羽を確認した。

キアシシギ *Heteroscelus brevipes* 旅鳥: 1983年および1985年5月, 8月に1～4羽を確認した。

イソシギ *Actitis hypoleucos* 留鳥: 一年を通して確認した。

タシギ *Gallinago gallinago* 冬鳥: 低水路が玉石等による川原状の時に最大24羽(1986年2月2日)を確認した。

カモメ科

ユリカモメ *Larus ridibundus* 冬鳥: 最大200羽(1995年と2001年1月), 早朝に狩川沿いに遡上してきて, 午後早くに下っていくことを確認した。

セグロカモメ *Larus argentatus* 冬鳥: ユリカモメの群に1, 2羽が混ざっているものを確認した。

コアシサシ *Sterna albifrons* 夏鳥: 1984年から1987年までは1～2羽が, 大泉河原橋上流まで飛来していることを確認した。

ハト科

キジバト *Streptopelia orientalis* 留鳥: 一年を通して確認し, 営巣も確認した。

アマツバメ科

ヒメアマツバメ *Apus affinis* 留鳥: ほぼ一年を通して確認した。

アマツバメ *Apus pacificus* 夏鳥: 調査地域内ではまれで, ヒメアマツバメの群れに混じっているものを確認した(1983年5月8日)。

カワセミ科

ヤマセミ *Ceryle lugubris* 留鳥: 1983年3月～4月, 1984年3月～4月, 1986年9月, 1987年3月, 1991年12月, 1992年3月22日, 1993年3月に各1羽, 泉川排水路を餌場としているものを確認したが, 隣接地が住宅開発された1993年以降は確認していない。

カワセミ *Alcedo atthis* 留鳥: 1～5羽, 幼鳥(1986年7月27日ほか)も確認した。

キツツキ科

アリスイ *Jynx torquilla* 冬鳥: 調査地域内ではまれで1986年3月8日1羽を確認した。

アオゲラ *Picus awokera* 留鳥: 1987年1月24日斜面の竹林で1羽を確認した。

コゲラ *Dendrocopos kizuki* 留鳥: 冬期にシジュウカラ, エナガと混群をなしているものを確認した。

ヒバリ科

ヒバリ *Alauda arvensis* 留鳥: 調査地域内ではまれで, 1983年4月, 1985年12月, 1987年11月1988年5月に各1羽を確認した。

ツバメ科

ツバメ *Hirundo rustica* 夏鳥: 調査地域内では3月中下旬から9月の間に確認した。

コシアカツバメ *Hirundo daurica* 夏鳥: 1985年まで営巣を確認したが, 近年はまれになった。

イワツバメ *Delichon urbica* 夏鳥: 橋梁の桁下や富士フイルム足柄工場の建物に営巣を確認した。また, 立体駐車場(関本)4, 5階に集団で営巣していることを確認した。

セキレイ科

キセキレイ *Motacilla cinerea* 留鳥: 幼鳥も確認した(1992年4月25日)。

ハクセキレイ *Motacilla alba* 留鳥: 幼鳥も確認した(1992年5月17日ほか)。

セグロセキレイ *Motacilla grandis* 留鳥: 幼鳥も確認した(1990年4月30日)。

タヒバリ *Anthus spinoletta* 冬鳥: 6, 7, 8月を除き, 各月に確認した。

ヒヨドリ科

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* 留鳥: 幼鳥も確認した。

モズ科

モズ *Lanius bucephalus* 留鳥: 幼鳥 (1986年4月20日) も確認した。

レンジャク科

ヒレンジャク *Bombicilla japonica* 旅鳥 1991年3月3日 68羽を確認した。

ツグミ科

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* 留鳥: 1988年4月17日 ♀1羽を斜面林の林縁で確認した。

ジョウビタキ *Phoenicurus auroreus* 冬鳥: 調査地内では、10月下旬ないし11月から翌年4月下旬の間に確認した。

ノビタキ *Saxicola torquata* 夏鳥: 1983年10月22日1羽を確認した。

イソヒヨドリ *Monticola solitarius* 留鳥: ほぼ一年を通じて確認した。

トラツグミ *Zoothera dauma* 留鳥: 1986年3月8日1羽を確認した。

アカハラ *Turdus chrysolaus* 留鳥: 斜面林の林床 (塚原) で確認した。

シロハラ *Turdus pallidus* 冬鳥: 斜面林の林床 (塚原) で確認した。

ツグミ *Turdus naumanni* 冬鳥: 調査地内では11月下旬に飛来を確認し、最長翌年5月上旬まで確認した。近年の傾向として初認日が遅れており、また、確認個体数が減少している。

ウグイス科

ウグイス *Cettia diphone* 留鳥: 一年を通じて確認した。

オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus* 夏鳥: 調査地内では夏期と10月に確認した。

セッカ *Cisticola juncidis* 留鳥: ほぼ一年を通じて確認した。

ヒタキ科

サメビタキ *Muscicapa sibirica* 夏鳥: 1992年10月18日1羽を確認した。

エナガ科

エナガ *Aegithalos caudatus* 留鳥: 特に2003年1月19日に河川内アシ原に降りて採餌しているのを確認した。

ツリスガラ科

ツリスガラ *Remiz pendulinus* 冬鳥: 1986年10月12日 ♂1羽を確認した。

シジュウカラ科

シジュウカラ *Parus major* 留鳥: 一年を通じて確認した。また幼鳥も確認した (1991年7月13日ほか)。

メジロ科

メジロ *Zosterops japonicus* 留鳥: 一年を通じて確認した。

ホオジロ科

ホオジロ *Emberiza cioides* 留鳥: 堤防法面や河川内の草地に群れるが、河川環境の整備とともに確認個体数が減少している。

カシラダカ *Emberiza rustica* 冬鳥: 堤防法面や河川内の草地に群れるが、河川環境の整備とともに確認個体数が減少している。

アオジ *Emberiza spodocephala* 留鳥: 堤防法面や河川内の草地に群れるが、河川環境の整備とともに確認

個体数が減少している。

アトリ科

アトリ *Fringilla montifringilla* 冬鳥: 1987年3月8日2羽を確認した。

カララヒワ *Carduelis sinica* 留鳥: 一年を通じて確認した。

イカル *Eophona personata* 留鳥: 一年を通じて確認した。

シメ *Coccothraustes coccothraustes* 留鳥: 一年を通じて確認した。

ハタオリドリ科

ニユウナイスズメ *Passer rutilans* 冬鳥: 調査地域内では、1986年4月12日40羽、1987年4月10羽、1993年12月4日90羽、1995年12月16日6羽、12月31日5羽、1998年11月28日10羽を確認した。スズメ *Passer montanus* 留鳥: 一年を通じて確認した。

ムクドリ科

ムクドリ *Sturnus cineraceus* 留鳥: 一年を通じて確認した。

カラス科

カケス *Garrulus glandarius* 留鳥: 一年を通じて確認した。

オナガ *Cyanopica cyana* 留鳥: 一年を通じて確認した。また、営巣 (1993年9月5日) も確認した。

ハシボソガラス *Corvus corone* 留鳥: 調査前半では個体数をカウントしていないが、ごみ出し方法の改善により確認個体数は明らかに減少した。なお、調査地域内の関本丘陵の斜面林にねぐらが形成されている。

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* 留鳥: 調査前半では個体数をカウントしていないが、ごみ出し方法の改善により確認個体数は明らかに減少した。

謝辞

神奈川県立生命の星・地球博物館の加藤ゆき学芸員に種々のご教示をいただいた。謹んで感謝の意を表する。

引用文献

五百沢日丸, 2000. ネイチャーガイド日本の鳥 550 山野の鳥, 359pp. 文一総合出版, 東京.

桐原政志, 2000. ネイチャーガイド日本の鳥 550 水辺の鳥, 351pp. 文一総合出版, 東京.

日本鳥学会編, 2000. 日本鳥類目録改訂版第6版, 345pp. 日本鳥学会, 帯広.

電子文献

神奈川県小田原土木事務所, 2005. 小田原土木事務所の管理する河川. 神奈川県. On line Available from internet <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/07/1914/odo/odo-index.htm> (download on 2005-10-29)

(南足柄市和田河原 827)

